

玉虫色の争点：

倫理の相対主義についての問題

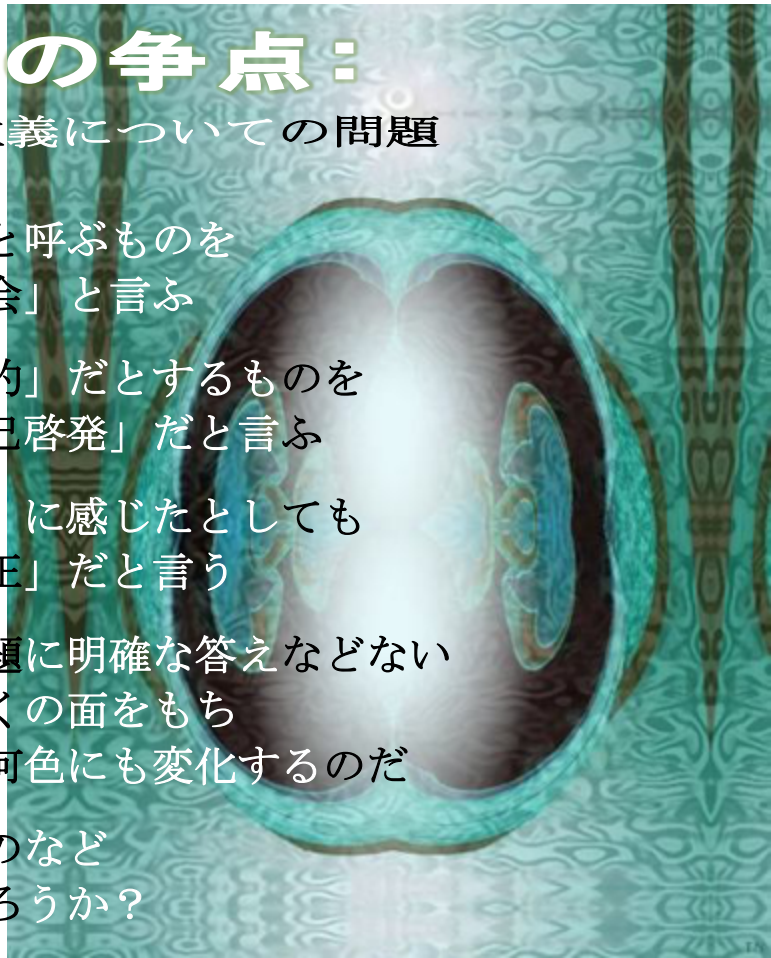
誰かが「墮落」と呼ぶものを
他の誰かは「機会」と言ふ

誰かが「不道德的」だとするものを
他の誰かは「自己啓発」だと言ふ

誰かが「不公平」に感じたとしても
他の誰かは「公正」だと言う

人生に起きる問題に明確な答えなどない
全ての事柄は多くの面をもち
異なる見方では何色にも変化するのだ

玉虫色でないものなど
存在し得るのだろうか？



ミン： このような不道德と言うべきことは憎まれて当然です。

玲亜： まあまあ、すべての道德とは相対的なものではありませんか。

ミン： いいえ。少なくとも人には絶対的な基準がありますが、この著者はその事実を無視しています。

玲亜： 「絶対」という言葉を使うときは注意してくださいね、すべての物事にはその時々の事情があると思いますからね。

ミン： それは違います。絶対感がないと我々は道德のコンパスを失うのです。

- T Newfields (和訳：神谷・卓代)

開始：1998年 静岡市 ・完成：2012年 東京都

